

文節の働き「文の成分」について確認しよう

文を、意味がわかるように、できるだけ小さく区切ったものを文節といいます。
 例 日本で一番高い山は富士山です。(「は」は区切りを示します。)

一、文節を、文の中での働きによって分類したものを、「文の成分」と言い、全部で五つあります。次の説明文に当てはまる文の成分を後の語群から選んで書きましよう。

文の中での文節の働きについての説明	文の成分名
① 文の中で、「誰が」「何が」にあたる文節。行動や状態、存在の主体を示す。	
② 文の中で、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」にあたる文節。基本的に文の最後になる。	
③ 他の文節の状態や様子を詳しくする文節。「いつ」「どこ」「何を」「どのよう」など。	
④ 文と文、語と語などをつなぐ働きをする言葉が含まれた文節。順接や逆接など、前後の関係を示す。	
⑤ 他の文節と直接の関係を持たず、あいさつ、掛け声など、単独で文の中で働く。	

《文の成分》
 主語 述語 修飾語 接続語 独立語

二、文節の中には、他の文節と関係を持つものがあり、四つに分類することができます。次に挙げる文節の関係を説明した文を後から選び、番号を書きましよう。

ア 主語・述語の関係 () イ 修飾・被修飾の関係 ()

ウ 並立の関係 () エ 補助の関係 ()

- ① 二つ以上の文節が、文の中で対等の位置にある関係。
- ② 「誰が」「どうする」「誰が」「どんなだ」など、文の基本となる文節の関係。詳しくする文節と、その文節により状態や様子が詳しくなる文節の関係。
- ③ 下の文節が上の文節を補助する関係。下の文節は言葉の本来の意味を失っている。
- ④

三、それぞれの問題の説明を繰り返し読み返して、説明できるようになりましよう。

文節の働き「文の成分」について確認しよう

文を、意味がわかるように、できるだけ小さく区切ったものを文節といいます。
 例 日本で一番高い山は富士山です。(「は」は区切りを示します。)

一、文節を、文の中での働きによって分類したものを、「文の成分」と言い、全部で五つあります。次の説明文に当てはまる文の成分を後の語群から選んで書きましよう。

文の中での文節の働きについての説明		文の成分名
① 文の中で、「誰が」「何が」にあたる文節。行動や状態、存在の主体を示す。		主語
② 文の中で、「どうする」「どんなだ」「何だ」「ある・いる」にあたる文節。基本的に文の最後になる。		述語
③ 他の文節の状態や様子を詳しくする文節。「いつ」「どこ」「何を」「どのよう」など。		修飾語
④ 文と文、語と語などをつなぐ働きをする言葉が含まれた文節。順接や逆接など、前後の関係を示す。		接続語
⑤ 他の文節と直接の関係を持たず、あいさつ、掛け声など、単独で文の中で働く。		独立語

《文の成分》			
主語	述語	修飾語	接続語
			独立語

二、文節の中には、他の文節と関係を持つものがあり、四つに分類することができます。次に挙げる文節の関係を説明した文を後から選び、番号を書きましよう。

ア 主語・述語の関係 (②) イ 修飾・被修飾の関係 (③)

ウ 並立の関係 (①) エ 補助の関係 (④)

- ① 二つ以上の文節が、文の中で対等の位置にある関係。
- ② 「誰が」「どうする」「誰が」「どんなだ」など、文の基本となる文節の関係。詳しくする文節と、その文節により状態や様子が詳しくなる文節の関係。
- ③ 下の文節が上の文節を補助する関係。下の文節は言葉の本来の意味を失っている。
- ④ 下の文節は言葉の本来の意味を失っている。

三、それぞれの問題の説明を繰り返し読み返して、説明できるようになりましよう。